

夏秋きゅうりの雨よけ栽培法

— 被覆方法 —

南部分場

1. 背景とねらい

夏秋きゅうりは、病害が発生しやすく、薬剤散布回数の多い品目の一つであり、作柄が気象条件に左右されやすく、生育遅延や気象災害などによって低収となり、作柄が不安定である。そこで、雨よけ施設の活用で阻害要因の軽減による作柄の安定化を目的に検討した結果、成果が得られたので指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

- 1) ヤマセ気象下の夏秋きゅうりの作柄安定のためには、全期間雨よけ+保温が効果的であり、収穫期間の延長が可能となり、約30~40%の増収が期待できる。
- 2) 屋根ビニールは、定植時から収穫終了時まで全期間被覆する。
- 3) 保温期間は、定植時から最低夜温15℃に達するまでとし、最低夜温15℃以上になった時点で再びサイドビニールで保温を行う。
- 4) 品質（ブルーム）は収穫初期に若干認められたが、中期以降露地栽培と差がなく、良果率は雨よけ栽培により露地栽培よりも約5%向上する。
- 5) 適応地域
沿岸地帯

2. 指導上の留意事項

- 1) 雨よけ栽培は、晴天時の温度が2~5℃程度高めになるので、屋根ビニールの押し上げで充分換気を図る。
- 2) 雨よけ条件による照度は、晴天日で25~30%、曇天日で10%程度各々減少するので、新しい資材、もしくは屋根ビニールの洗浄によってできるだけ光線透過量を多くする。
- 3) 栽植密度は、畦幅270cm、株間60cm、2条植アーチ支柱（a当り123株）とし、支柱は夏秋トマト用パイプ支柱（長さ260~270cm）を用いる。
- 4) 過繁茂になりやすいので摘葉、摘芯は適宜行う。
- 5) 灌水装置を設置する。
- 6) 薬剤の防除回数の軽減が図られる。
- 7) 強風、低温時にはサイドビニールを下げるので気象災害の軽減が図られる。

4. 試験成績の概要

- 1) 雨よけ期間と保温期間

試 験 区	雨よけ期間	保 温 期 間	
		前 期	後 期
全期間雨よけ +保温	60年 5/13~10/18 61年 5/20~10/31 62年 5/30~10/31	60年 5/13~6/5 61年 5/20~6/10 62年 5/30~6/10	60年 9/25~10/18 61年 9/24~10/31 62年 9/24~10/31
生育前期雨よけ +保温	60年 5/13~7/20 61年 5/20~7/23 62年 5/30~8/6	60年 5/13~6/5 61年 5/20~6/10 62年 5/30~6/10	—
対照区(露地)	—	—	—

2) 主要な試験データ

表 1. 収量調査

試 験 区	年 次	12株当り(kg)				良果率 (%)	a 当り収量(kg)			収量比 A + B
		A	B	C	くず果		A	B	A+B+C	
1. 全期間雨よ け+保温	60	81.9	72.7	38.7	15.4	39.2	843	1,592	1,991	148
	61	50.3	60.2	45.2	14.3	29.6	518	1,138	1,603	171
	62	52.9	70.9	31.0	16.7	30.8	545	1,275	1,594	123
	平均	61.7	67.9	38.3	15.5	33.2	635	1,335	1,729	144
2. 全期間雨よ け保温なし	60	71.1	73.6	36.0	18.3	35.7	732	1,490	1,861	138
	61	45.4	57.8	43.7	11.9	28.6	468	1,063	1,513	159
	62	61.9	82.5	32.3	16.0	32.1	637	1,487	1,820	144
	平均	59.5	71.3	37.3	15.4	32.1	613	1,347	1,731	145
3. 生育前期雨 よけ+保温	60	74.2	71.9	30.5	16.2	38.5	764	1,505	1,819	140
	61	55.6	57.8	32.7	11.8	35.2	573	1,168	1,505	175
	62	52.4	69.2	30.3	11.7	32.0	540	1,252	1,564	121
	平均	60.7	66.3	31.2	13.2	35.2	625	1,308	1,629	141
4. 生育前期雨 よけ保温なし	60	71.4	74.3	30.8	18.1	36.7	735	1,500	1,818	139
	61	41.5	60.1	45.3	13.8	25.8	427	1,046	1,513	157
	62	51.0	71.5	28.2	12.4	31.3	525	1,262	1,552	122
	平均	54.6	68.6	34.8	14.8	31.3	562	1,269	1,627	137
5. 露 地 (対照区)	60	48.5	56.0	32.8	27.3	29.5	499	1,076	1,414	100
	61	27.2	37.6	36.6	16.9	23.0	280	667	1,044	100
	62	39.8	60.7	28.2	8.2	29.1	410	1,035	1,325	100
	平均	38.5	51.4	32.5	17.5	27.5	396	926	1,261	100

* A, B, C は、県青果物など出荷規格による。
表 2. 時期別収量比(対照区比%)

試 験 区	年 次	6 月	7 月	8 月	9 月	10月
1. 全期間雨よ け+保温	60	455	160	83	147	205
	61	933	148	161	195	195
	62	280	113	108	167	122
	平均	556	140	119	170	174
2. 全期間雨よ け保温なし	60	309	151	115	144	200
	61	533	151	150	163	218
	62	100	118	145	186	120
	平均	314	140	137	164	179
3. 生育前期雨 よけ+保温	60	418	155	131	133	95
	61	1067	185	180	148	124
	62	200	116	124	131	106
	平均	562	152	145	137	108
4. 生育前期雨 よけ保温なし	60	355	158	125	134	130
	61	665	158	154	141	192
	62	80	119	129	138	104
	平均	367	145	136	138	142
5. 露 地 (対照区)	60	100	100	100	100	100
	61	100	100	100	100	100
	62	100	100	100	100	100
	平均	100	100	100	100	100